

## 「役割を共有」 ～一人でやっていませんか？～

ヨハネ4：35-38

1コリ3：6-17

秋の気配が感じられるようになりました。体調管理をするため夏の間お世話になったエアコンひとつとってみても私たちが今、快適に生活できているのは、先に生きた人たちが色々な問題に向き合い研究した結果であり、誰一人自分の力で成し遂げたものはなく、みんなの努力の賜物です。また、家を建てる時は完成するまでに建築士、大工、左官など様々な人が関わります。仮に大工が建具を作ったとして、それなりの形にはなりますが、建てつけが悪かったり使い勝手が悪かったりと問題が出てきます。やはりその職の人にしかできない技術があり、それらが互いに合わさって初めて完成形となるのです。作曲家のベートーベンも、かつて「運命」を作曲し、この曲の初公演に彼自身が指揮者としてタクトを振りました。その結果は大失敗。なぜなら彼は作曲家であり指揮者ではなかったからです。ではこの曲を現在も多くの人々が愛し、絶賛することができるのはなぜでしょう。それはこの曲の素晴らしさを知った指揮者がベートーベンの思いを指揮者として形にすることができたからです。あることを成功させようとする時、実に86%が人間関係によってなされるのをあなたは知っているでしょうか。このように、私たちにはそれぞれの役割があるのです。しかし、私たちはとかく聞けばいいことを聞かなかったり、頼ればいいことを頼らななったり、助け合うのが苦手だったり、自分で何とかしようとしたりします。そしてそこで失敗すると、誰も助けてくれない、私は孤独だと思ってしまいがちです。あなたは何でも一人でしようとしていませんか。ヨハネ4：35-38には種蒔きと刈り取りの話があります。これは私たちに対して、「福音を伝えるため、これから救われる人々のところへ行く時、自分はまだそのようなことができる状況にない、まだ早い、まだ自分は種蒔きをしている状況で刈り取る状況にはない、と思ってはいませんか。あなたにはもう刈り入れるばかりのものがすでに用意されています。それはあなたが蒔いたものではなく、先に種を蒔いてくれた人のものを刈り取るのです。そして、あなたは後の人のために新たに種を蒔いていくのです。」ということ伝えてあります。このように私たちはそれぞれ役割をもって歩いていくのです。そしてその時神様は、私たちが困難のうちにあるとき、必ず助け手を送ってくださり、実が結べるように導いてくださるのです。聖書の中に出てくる全ての人々は、大変で辛くてどうしようもないという「荒野の時代」を通ります。これは神様がそれぞれ与えた使命を果たす器となるための神様からの試練なのです。聖書の中にはその試練を乗り越えられた人と乗り越えられなかった人の生き方が描かれています。そして、それは今を生きる私たちも同じなのです。ここで大事なことは、「神様は試練の中で、私たちに必ず助け手を与えてくださる」と言うことです。神様は私たちが孤児にしたり、見捨てたりはなさいません。ダビデとヨナタンの兄弟愛はまさに神の愛の関係でした。ヨナタンは父サウル王に逆らってまで自分を愛するほどにダビデを愛し、助け手として生きました。ダビデ自身も辛い荒野の時代をこのうえない喜びとし、神様を賛美しました。神様から試練を受けると言うことは、私たちが私生児でなく神の子であることでもありますから、孤独に思うことは何一つありません。ダビデとヨナタンの関係は良い時も悪い時もお互いに理解し、役割を共有していました。あなたにも必ずそういう人がいます。ですから私たちも神の働きをする者、神の神殿（1コリ3）として、自分勝手な思いで自分自身、また隣人の神殿を壊すことなく、それぞれの役割をもって互いに助けとなり、とりなす者となり、支え合っていかなければなりません。あなたはもう一人ではありません。役割を共有していくために・・・私たちは①コイノニア（イエスキリストという共有の宝＝「キリストの愛」を持っている関係）です。一人で戦うのはもうやめましょう。労苦を共に負い合いましょ。誰一人自分の力ではできないのです。私たちはエクレスシア（召し集められた者）です。ここにいる意味があるのです。その時その時であなたでないダメということがあるのです。あなたが助けです。そして、それは②神の栄光のため（ローマ14:6-9）です。「私がやってあげている」とか「どうせ私なんて」と思っていませんか？あなたの欲はあなたの目を暗くし、自己卑下は造られた方である神様を否定することになります。そうではなく、こんな私でも神様の栄光のために用いられるということ喜びとし、一日一日を生きていきましょう。全てのことが神の栄光となるよう、変わらない人になりましょう。またこれらのことを③共に行うようにしましょう。これは、神と共に、兄弟姉妹と共にという意味です。もしあなたが辛く、孤独に感じるようなときにも神様はいつもそばにいて共に歩んでくださっています。自分の足で歩けない時には神様があなたを背負って歩いてくださるのです。私たちは愛されています。神様と共に歩みましょう。そして、その時その時で必要な助け手と共に歩いていきましょう。そうすれば、私たちにできないことは何一つありません。私たちは通り良き管であり、全ては神の栄光のために召し集められました。良い時も悪い時も共に歩む人々たちを理解し合い、支え合い、愛し合っていきましょう。そして、試練の道も喜んで、自分の役割をしっかりと握って良い種を蒔き、また刈り取りていきましょう。（要約者：金光 瞳）